

情熱果敢

～生きる喜びを実感できる都市創造～ The Slogan In 2009

Vision

Vol.1

JCI  社団法人埼玉中央青年会議所 広報誌
Junior Chamber International Japan, Saitama-Chuo



こんな活動しています

- 例会報告 1月～7月
- 事業報告 エコアクション2009、REAL DREAM etc.
- What's JC? メンバーの声

対談

「生きる喜びを実感できる
都市創造に向けて」



理事長 × 櫻井よしこ

生きる喜びを実感できる 都市創造にむけて

1 日本人としての誇りを持つ とう

江原 戦後約65年を迎える中で、日本はこれまで急成長をとげて、世界に誇れる国になりました。ただ実際物は豊かになりましたが、心や精神の部分ではどうでしょう。日本人の誇りや使命感、命の尊厳や日本の未来を憂う愛国心が大切だと思いますが、それが少しずつ失われて来てると思います。その弊害で人間関係の希薄化や愛国心が失われているんだと、郷土愛が少なくなってきたのかなと。いかがでしょうか？

櫻井 今おっしゃったように戦後の日本は経済的には本当に稀なる発展を遂げたわけです。けれども、お金は目的ではなく手段なのです。経済も目的ではなく手段です。人間がいかに心豊かに暮らす事ができるか、また、国家がいかに安定した国家運営をできるかが大切だと思います。

でも戦後の日本では、経済が目的になってしまったかのような社会的風潮が生まれてしまった。或る意味において戦後の日本人は日本人ではなかったと思うんです。心を磨くという事、誰が見ていてもいなくても、自分らしい自分であるという事、そして恥ずかしいことはしない、私利私欲

江原 そうですね。すごく大変でしたが、自分の将来に大きな夢を抱きながら志と夢を持って、道徳心とか思いやりの心を持ちつつも、無限の可能性、がむしゃらに笑顔で挑戦する。そんな夢と志を育む青少年育成にも私達は取り組んでいます。

櫻井 まあ、41人連れて行くって大変ですね。夢って大切ですね。家庭、学校、地域と教育の環境はいろいろあり、大人が後ろ姿で子どもに見せていかなければいけないと思います。桜井さんの視点から見た理想の親像についてお聞かせ頂けますか。

櫻井 そうですね、まず食事をきちんとさせるなど子どもを健康にきちっと育てる。規則正しく生活させる。礼儀を考える。良いこと悪いこと、人に対する配慮をきちんと教える。そういったことをきちんと教えて、破った時には必ずしつかり叱る。そして子どもが大きくなると必ず理屈を言ってくるようになりますので、それを良く聞いてやるというのが重要だと思います。間違っていると思ったらちゃんと叱ってやるのが良い親、良い子どもを育てる必須条件です。

そして夫婦間の対話が子どもにもたらす影響を大事に考えてほしいですね。「お父さんは立派だ」「すごく良いお母さんだな」とは夫婦間の思いを夫婦間の関係で子どもに示していくのがよいと思います。お互いに立てあうことをしていると、子どもはおのずと両親がいい人なのだと、立派な人なのだと思うようになります。お互いに思いあって、お互いに立てあって、お互いに守

に走らない、ひたすら自分を磨いていくという事をとて大事にしてきた人たちが、日本人だったと思います。そんなことをいつの間にか、みんな忘れてしまっていると思います。

本場の意味で日本人であるためには、日本の文化・文明を知る事も重要な要素なのです。日本人の生き方として武士道がありましたね。武士道というと侍だけのものかと思うけれども、そうではなくて女性も子どもも、老いも若きもみんなそれぞれの武士道というものを持って生きていたのが、日本人です。それはまず、私利私欲から離れることです。自分がこの世に生まれてきたのは、自分の為だけではなくて周囲の為でもある。親兄弟、友人社会、国家の為であるところを、いわゆる「公（おおよけ）」の意識をすごく持っていたんですね。それが全くなくなってきたのが戦後の日本です。その戦後の日本で生まれ育って「公」の意識もなく、自分自身の権利や自由を主張するのが当たり前だと思っている日本人は、本当の意味での日本人ではないと思うんです。そこから日本がありとあらゆる面を力としてきたと思います。

J.Cの皆さんは、社会のために何かしたい、次の世代のために何かしなければならぬと考える。その「公」の気持が皆さんを駆り立てるわけですね。だからこ

3 愛する地域の未来を考えよう

江原 今、我々は大きな変革の中に直面していると思います。中央集権型の国家作りから、少しずつ地方分権に移行しようというまちづくりが今後あると思いますが、どのようにお考えですか。

櫻井 地方分権ですが、分権した地方をどのような自治体に仕上げていくのかは地方の自治体が決めるわけです。しかし、地方の長を見るとほとんどが元官僚です。大切なのは、まず人間なのです。

自分の住んでいる地域、故郷を、その地域の伝統や文化を反映させながら発展させていく、教育をしていくことが地方分権の一番大切なところですね。自分たちの県、地域を自分たちの知恵と気概で一生懸命盛りたてたいという人間が育ってこない、みんな天下下りということになってくるのです。

それをさせないためには、人材を育てる。人材は育てるには、自分たちの町や村、市を自分たちで守り、盛りたてる意識が必要です。小さな自治体では基本的にボランティアが良いと思います。よりよい社会づくりのために自分の時間を空けて奉仕活動として議員となりますというようなことができれば、利益を離れて公のための提言が実行できると思います。

多くの人が入ってきて、運動が盛り上がりつつあるわけですね。これがJ.Cに入ったらなんぼ儲かるのかな、そういうことだったらとつくの昔にこの組織はつぶれていると思います。

江原 僕は、自分の生活する環境の手の届く範囲の中で、その人達を幸せにできるよ

うに、愛するすべてを輝かせる太陽になろう、と言っているんです。その思想は日本人特有のものだと思っています。この国に一人でも多く日本人として誇りとか、日本の美徳を語れる、そしてそれを語りながら行動できる逞しい人間を輩出していく、それは当然我々もそうならなきゃいけないし、その我々の後ろ姿を見た人間がそう

4 若い世代へのメッセージ

江原 最後に、櫻井さんから我々青年に向けて期待することをお聞かせ頂けますか。

櫻井 日本人はすごく誠実で、真面目な人たちだと思います。公のために何かしたいという気持ちも持っていると思います。にもかかわらず、日本があまり元気が無いと思われするのは、日本人に自信がないからではないでしょうか。日本の歴史や価値観を十分に知らない、十分に身に付けているわけでもないからだと思います。

皆さん方がこの国の行く末を考えて、自分のもてる力を他人のために、社会のため

2 大人が変われば子どもは変わる

江原 先日私達の方も、市内の小学校4年

櫻井よしこ Yoshiko Sakurai

ジャーナリスト
ベトナム生まれ
新潟県立長岡高等学校卒業
ハワイ大学歴史学部卒業

米紙「クリスチャンサイエンスモニター」東京支局勤務を経て、80年より日本テレビ「きょうの出来事」キャスターを16年務める。95年に「エイズ犯罪血友病患者の悲」で第26回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。98年に「日本の危機」など一連の言論活動で第46回菊池寛賞を受賞。その他、「何があっても大丈夫」「憲法とはなにか」「明治人の姿」など著書多数。07年12月にシンクタンク「国家基本問題研究所」を設立し、理事長として積極的に政策提言を発信している。

に役立てたいと思う気持ちはこの上なく尊いものです。今日本がもっとも必要としているのはまさにそういう価値観だと思います。

日本ほど素晴らしい人間同士の調和と社会を作った国は無いのです。しかも上に立つ人が非常に謙虚で、下に立つ人も自分の分というものをきちんとわきまえて、みんなが手を携えていた。そのような社会を作った国はおそらく日本だけなのではないかと思っています。その国の伝統をより良い形で引き継いでいってほしいと思います。

江原 大変ありがとうございました。

江原大輔 Daisuke Ehara

埼玉中央青年会議所 2009年度の第14代理事長を務める。

スローガン 「情熱果敢」～生きる喜びを実感できる都市創造～を掲げ、出会いから学ぶ自己の修練と愛するまちの未来創造「誰もが生き生きと安心して自分の夢と地域の誇りを語る都市」の実現に向け、我々が愛するすべてを輝かす太陽となり、多くの地域市民と夢を共有し、生きる喜びを実感できる都市の実現を目指し情熱果敢に活動中。

さいたま市長選挙 ローカルマニフェスト型公開討論会

5月10日公示、24日投票のさいたま市長選挙において、私達は5月9日(土)にさいたま市民会館おみやにてローカル・マニフェスト型公開討論会を開催しました。立候補者6名すべての方に出席して頂き、来場者数も800名を超え、盛況のうちに討論会を行うことが出来ました。そして、今回の公開討論会を通じ、参加して頂いた地域市民の方々に市政への関心をより一層持つて頂けたと確信しています。



参加者からの意見

● マニフェストを配布して頂き、それに基づいて立候補者の具体的な考えが理解でき、良かったです。コーディネーターの方の質問も的確なものが多く、さいたま市の現状や、その代表となる方々の方針を知る事ができました。(西区在住、20代女性)

● 新聞情報だけではよく分からなかった人柄や政策の詳細が、ある程度わかりました。今日聞いただけではいきませんでした。今日聞いた資料を再読して判断したいと思っています。(緑区在住、50代男性)

上尾元気子どもみこし

7/19

上尾夏祭りにおいて上尾元気みこしを行い、今年10基のみこしをだしました。上尾文化センターにて、みこし製作会を行い子どもたちに自由な発想で酒樽に飾り付けをしてもらいました。そして、当日は元気いっぱい旧中山道、上尾駅東口ロータリーを練り歩いてもらいました。地域の交流が希薄になってきている中、地域の大人と子どもと一緒にみこしを製作し上尾夏祭りにおいて担ぐという事業を毎年行っていますので、ぜひ来年参加して一緒に汗をかきましょう!

参加者からの意見

● 自分たちが作成した手作りのおみこしをかつぐ事ができて、夏休みの思い出になりました。(小学6年生)

● 子ども達が一生懸命おみこしを担ぐ姿をみて、普段は見れない逞しさを感じる事が出来ました。(母親)



活動」

しています



こんな

エコアクション2009



4月25日にさいたま新都心のブリランテ武蔵野にて「エコアクション2009」が開催されました。一人ひとりに今の地球を知っていたく事で、地球保護を考える仲間を増やし、地球を我が家として愛着をもってもらうことを目的としています。

第一部で小学生を対象に「子ども環境クイズ選手権」を行い、クイズを通して環境問題を見直しました。第二部では、気象予報士の石原良純氏に「空から学ぶ環境問題」というテーマで講演をしていただきました。ウエザーキャスターとしての活動から様々な環境問題に取り組み

中央区ばらまつり

5/16、17

例年大変多くの地域市民がとて楽しんでいて、中央区の色であるばらの魅力にふれることで、参加いただいた方に地域に対する愛着を更に深めていただきたく、我々は中央区PTAと連携をとりアメリカカンファワー「はくとふるローズ」制作を地域の方々と共にを行い、完成した「はくとふるアート」をさいたま市役所、さいたま市中央区役所、ご協力をいただいた中央区PTA会に寄贈致しましたので、ぜひご覧になってください。

参加者からの意見

● 子ども達が真剣に物作りに取り組み姿がとてもよかったです。(主婦)

● 親子で参加でき、記念となる物が作成できうれしかったです。(父親)

● 毎年子ども達が楽しみに、アメリカカンファワーを作りにきています。(主婦)



REAL DREAM

～夢に向かってまっしぐら!～

7月20日(月)～7月21日(火)の2日間、我が国の象徴であり、文化の母胎ともなってきた富士山の頂上を、さいたま市、上尾市、伊奈町の小学校4年生～6年生41名でめぐりました。この事業は、子ども達が将来に向かって大切な夢を膨らませ、夢に向かっていく自信を身につけてもらうためには、普段の生活とは異なる大自然を舞台にした、仲間との肌が触れ

参加者からの意見

● 子ども達が環境に携われる、このような素晴らしい事業を毎回企画している青年会議所の皆さんに感謝しています。(主婦)

● 今まで知らずに環境汚染をしていた事が、クイズを通して、わかりました。(小学生男子)

わんぱく相撲埼玉中央場所

6月13日(土)、毎年恒例のわんぱく相撲埼玉中央場所が本年も行われました。今年は埼玉県の武道の聖地である埼玉県立武道館屋内相撲場にて実施。5月に行われた、さいたま市子ども相撲大会、げんき相撲上尾、伊奈場所の成績優秀者の小学校4年生～6年生15名が埼玉ブロッタ大会の代表選手をめぐり、熱い戦いをくりひろげました。日本の伝統的な国技である相撲を通じ、心身の鍛錬と健康の増進はもろろんのこと、競技の勝ち負けだけにこだわることなく、勝つことの喜び、負けることの悔しさを感じ、勝者を称え、敗者への思いやりの心を育むことができました。

参加者からの意見

● 日本の国技を体験できる唯一のスポットを子ども達が体験できる唯一の場所です。(小学生女子)



ばらのまち伊奈

5/16、17

伊奈町は「ばらのまち」であることを皆さんご存知ですか?伊奈町には県下最大級を誇るばら園が町制施行記念公園内にあり、町のシンボルであり町花としても大変親しまれております。ばらの写真会、アメリカカンファワー制作会などの事業を通して様々なばらの魅力に触れ、伊奈町の魅力の一つであるばらについて深く理解してもらおうとともに、私たちが暮らすこのまちに対して深い愛着を持ってもらうことを目的として開催しました。

参加者からの意見

● 毎年このイベントに参加するのを楽しみにしています。(小学生女子)



● ばらの存在がとてみじかに感じられて、うれしいです。(主婦)



合うような体験学習の機会が必要であると考え企画しました。天候の悪い中、31名が登頂に成功しました。事前説明会で作成した、自分たちの夢を描いた旗を山頂に掲げました。日本一の山を登り切った子ども達は自信に満ちあふれた表情に変化していました。

参加者からの意見

● とても辛かったけど、頂上までがんばって登れてよかったです。来年もまた登ってみたい。(小学生女子)

● 8合目までしか登れなくて残念だったけど、次は必ず頂上に登りたいです。(小学生男子)

子ども環境クイズ選手権より

Q1 日本の富士山は「世界遺産」に登録されている。○か×か。

解説1 ×
世界遺産に登録されるためには厳しい審査をパスしなくてはなりません。遠目からはきれいに見えますがゴミ問題など解決すべき問題が多くまだ世界遺産には登録できません。

Q2 日本人は1人あたり年間約100膳の割り箸を使用している。○か×か。

解説2 ×
年間なんと約210膳の割り箸を使用しています。ほとんどが中国からの輸入で、その結果中国の森林伐採が問題になっています。

Q3 1人の人を運ぶのに一番温暖化の原因になる乗り物は自動車である。○か×か。

解説3 ○
人間1人を運ぶのに自動車は飛行機の3倍以上、バスの7倍、鉄道の19倍の二酸化炭素を排出します。なるべく公共機関を利用しましょう。

Q4 家庭から出るゴミの半分以上は物を包んでいた包装や容器である。○か×か。

解説4 ○
年間のゴミの量はおよそ3,400万トン。中でも60%と飛び抜けて多いのが包装と容器ゴミです。

Q5 このマークは「1回リサイクルしたペットボトル」という意味である。○か×か。

解説5 ×
このマークは石油製品リサイクルマークで1番がペットボトル、2番が高密度ポリエチレン、3番が塩化ビニールと7番まであります。

Q6 埼玉県で作られた農産物を食べることを「〇産〇消」といいます。〇に入る漢字は?

解説6 地産地消
地元産の農産物を同じ地元で販売していくと、輸送時に必要なエネルギーの節約と共に、CO₂の削減にもつながり、地球温暖化対策となります。



1月 January

本年最初の例会「MOVE!」からはじめまるゝを開催しました。今年度のスローガン「情熱果敢「生きる喜びを実感できる都市」の実現に自発的に取り組み、決断力を発揮し行動する。」を発表し、各委員長、議長に登壇してもらい、本年度の活動内容や意気込みを伝えてもらいました。最後に「自分に課せられた役割を果たそうとする強い意志が使命感に繋がります。メンバー一人ひとりの使命感が社会変革運動の推進力である。」ことを発表しました。この例会で、今年度の活動方針を理解してもらい、今後の青年会議所運動につなげました。



LOMブランディング委員会

3月 March



スキルアップ委員会

私達は、子ども達の日常生活で目に見える大人の姿勢の在り方を変える必要があると考え、1年間を通して「大人の背中教育」を推進しています。その一環として浦和ロイヤルパインズホテルにて「教える為に学ぶこと」をテーマに、明星大学教授の高橋史朗氏と、やんちゃ和尚こと廣中邦充氏に対談をして頂く形式の例会を行いました。「親が変われば子どもも変わる」「子どもは悪くない！親が悪い！」と掲げる両講師により「親が変わるべきだ」ということを、一般来場者の教育関係者を含む259名の方々に伝えました。



教育政策実践委員会

4月 April

現在、地球規模で環境問題が問題視されている中、一人ひとりが高い意識を持って、環境保護への取り組みを行っていかねばなりません。そこで、地球環境問題の現状をより深く理解し、環境保護活動の重要性を理解するために具体的な事例を紹介し、環境保護について学びました。環境保護活動は取り組みだ結果が具体的に分かり難いため、「JCアース君環境家計簿」を作成し、配布しました。この環境家計簿はすぐに始められる環境保護活動を数値として表わせるものです。



未来の夢創造特別委員会

5月 May

5月17日に入間青年会議所エリアにて「第39回埼玉ブロック会員大会」が開催されました。一般の来場者をお招きして、合同演奏会事業、青少年サッカー事業、環境事業を行い、また早朝から夕方まで県内各地青年会議所、埼玉中央青年会議所から大勢のメンバーがフォーラム、セミナー、各事業等に参加し、

6月 June



会務運営委員会

「個と公の調和」のとれた、活力と知力とを兼ね備えたオピニオンリーダーとして活躍して行く為に「相手を理解し、秘められた考えを引き出そう」と題し例会を行いました。講師に株式会社ひらく代表取締役の越智昌彦氏をお招きし、マインドマッピングという手法とその



スキルアップ委員会

7月 July

7月7日(火)に7月第1例会「EVOLUTION!」を市民会館おみやで開催しました。今回の例会は、この地域を活動拠点とする我々社団法人埼玉中央青年会議所のあるべき姿を情熱×質×量＝発信力、の視点から分析し発表しました。それは、地域市民のニーズを汲み取り、常に新しいことに取り組みながら、地域市民のために活動するメンバー全員で率先して行い、それを効果的に発信することで、われわれの思いや行動に賛同してくれる地域市民を増やし、共に市民変革運動を行うことで、明るい豊かな社会の実現をしていく組織。というもので、豊かな明るい社会の実現に向けて自らを見つめ直す機会となりました。



LOMブランディング委員会



1きっかけは、転勤の関係でさいたま市に居住することになり、自社の取引先で埼玉県内でJC活動をされていた先輩がいて、エリアである埼玉中央JCをご紹介頂いて入会を勧められました。同じ世代の仲間と様々な事業・研修等を通して勉強ができる、そう思った事がきっかけです。

2JCに入会してよかったことは、自分には足りないところなどを教えて頂いたり、体験できなかった事がたくさんありました。例会設営やセミナー研修受講、JCを通じての地域活動への参加を通じて地域住民と一緒に活動するという事の楽しさを感じるようになりました。

3まずはいろいろな事業・月1回ある例会など継続して参加する事かと思えます。男性が多いイメージですが、女性でも心配無く十分に活躍できます。女性が増えていけば、新たな視点で発想が増えて、より地域へ対する活動への取り組みが変わってくると思います。

包行美和

2007年入会
職種 農林業用機械製造販売業



1私は1999年に青年会議所に入会しました。当時、現職のために旧浦和市に移り住み7年が経過した時でした。当時お世話になった先輩に地元の青年会議所の存在を聞き以前より入会希望だったためすぐにお願いをし入会をさせていただきました。

2入会して地元をはじめ日本全国に青年会議所の垣根を超えて友人が出来た事。そして青年会議所の事業を通じて地域に関わる事が出来た事が幸です。卒業生として私自身、自分の住むまちとして、今後もまちづくりを意識している事です。

3青年会議所は普段経験する事が出来ない事を自分が望めば平等にあたえてくれる団体です。長年にわたり先輩方が歴史も築いてくれています。きっと40歳で卒業する時には、情熱果敢に取り組んだ思い出が漲ってくるはずです。

漆原誠

2007年度 第12代理事
1999年入会
職種 卸売業
2008年卒業

What's JC?

青年会議所は活動の基本を「修練」「奉仕」「友情」とし、「明るい豊かな社会を築き上げよう」を共通の理想としています。

- 1 JCにはいったきっかけは?
- 2 JCに入ってよかったこと、あなた自身が変わったことは?
- 3 これからJCに入る方に伝えたいことを教えてください。



1今年で入会10年目です。自分の転職に際して、父親の紹介で会った方がJCのメンバーで、その場で勧誘されたのがきっかけでした。正直なところ最初は何をやる団体か知りませんでした。(笑)

2沢山あり過ぎて書ききれませんが、具体的には2002年日韓ワールドカップでボランティアをさせていただき、選手と同じピッチに立てた事。骨髄バンクに登録し、ドナーとして骨髄提供の機会を頂いた事です。

3行政と民間の間の世界を堪能で来ます。人生のひとつのエッセンスとして、地域や未来の子ども達の為に時間や体を使う事も悪くはないと思います。ぜひ一緒に活動しましょう！間違いなく新しい親友ができますよ！

河合康弘

2000年入会
職種 生命保険業



1私は2003年度入会、今年で6年目になります。JCに入会したきっかけは友人がJCに入っており、是非1度例会を見にこないかと誘われ、オプザー参加をしたのがきっかけです。当日は選挙例会でとても緊張感があり、メンバーも多数出席していて凄い団体だなと思いました。

2JCに入会してよかったことは、沢山の人の出会いです。いろいろな人と接することにより、自分自身でも勉強になります。また、一番変わったことは、時間の使い方が上手くなったことです。日頃のJC活動と仕事を両立させるには、やはり時間の使い方が重要です。最初は厳しい部分もありましたが、気づいたら上手になっていたような気がします。

3JCは社会人になってからも修練、奉仕、友情を勉強できる唯一の団体です。皆さんも是非われわれと一緒に活動し、共に切磋琢磨しましょう。

大木崇寛

2003年入会
職種 総合電設業

理事長挨拶

2009年度社団法人埼玉中央青年会議所



第14代理事長
江原 大輔

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。

希望に満ちた明るい社会、豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、明るい未来のための推進力にならなければならぬと考えます。

我々の活動エリアである政令市さいたま市、上尾市、伊奈町の地域市民の夢を実現するため、同じ理想と使命感をもつ若い世代の人々を集め、友情を深めつつ、激しく影響し合い、若さが持つ未来への無限の可能性を自らの手で効果的に描き出し、地域市民、関係諸団体、行政とのネットワークを築き「明るい豊かな社会」を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動力を結集すべく組織された団体が社団法人埼玉中央青年会議所です。

多くの出会いから学ぶ自己の修練と愛するまちの未来創造「誰もが生き生きと安心して自分の夢と地域の誇りを語れる都市」の実現に向け、共に情熱を燃やす仲間をメンバー一同、心よりお待ちしております。一人の誇り高き情熱は、自発的な意識に変革し、周囲の人々に感動をあたえ、協働という創発的な運動となつて共鳴しあい、大きなうねりとなつて多くの地域市民の心を動かしていくはず。愛するすべてを輝かす太陽となるべく、ぜひとも一緒に活動しましょう！

●埼玉中央と全国の仲間達

(社)埼玉中央青年会議所は、さいたま市・上尾市・伊奈町の2市1町を活動エリアとし、市民が誇りに思える自立都市を目指して地域内で開催される各事業に積極的に参加しています。

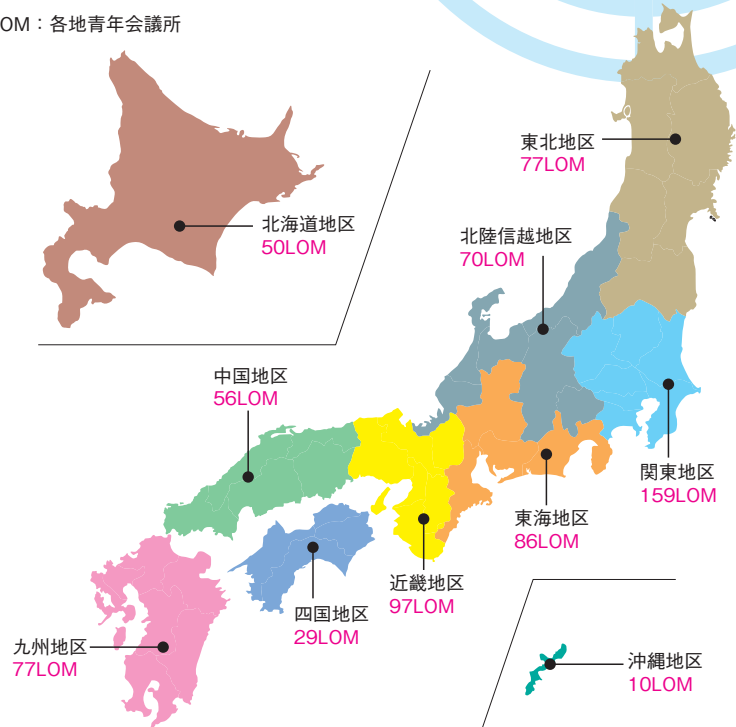
2005年から10年に向けて「ビジョン2005」を掲げ市民が誇りに思える真の自立都市の実現を目指して活動しています。毎月行われる例会・事業において地域のリーダーとしてのトレーニング・研修を行い数万人のメンバーが集う全国規模の大会において開催される様々なセミナーにもメンバーであれば誰でも参加出来ます。

40歳卒業の青年会議所で過ごす数年間は「個を磨き公を知る」絶好の機会として、多くのメンバーが学び友情を育み、卒業後も各方面で活躍しています

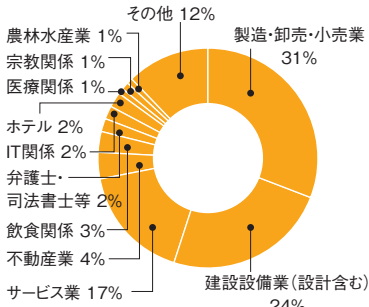
LOM数 711

2008年度(社)日本JCホームページより引用

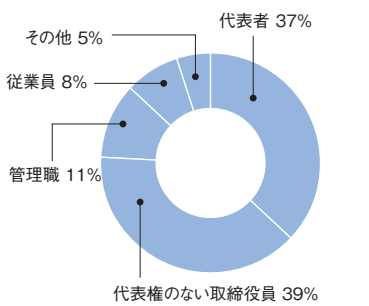
LOM：各地青年会議所



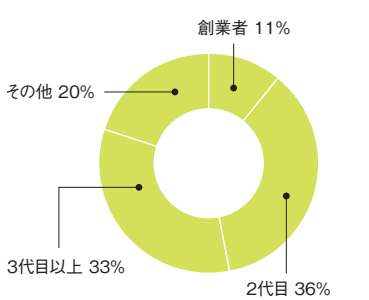
第1次産業～第3次産業まで、あらゆる業種で活躍しています



約9割が取締役&管理職として企業の中核を担っています。



創業者、事業継承者が多く、地域との強い絆が特徴です



会員募集

社団法人埼玉中央青年会議所では、愛する郷土の為、また次世代を担う子どもたちの為に、私たちメンバーと共に歩んでいただける仲間を広く募集しております。

ご入会に関するご説明などは、埼玉中央JCメンバー(拡大アカデミー委員会)がお伺いいたします。

入会資格・費用・お申し込み等は下記のサイト(社団法人埼玉中央青年会議所ホームページ)の「入会案内」をご覧ください。

<http://www.jc766.com/>

私の小さな気づき.....

7月に青年会議所の事業「Real Dream」で、地域の子ども達と初めて富士山に登りました。5合目からでしたが、そこは既に2、300m! 少し空気が薄いなあと感じるなか、小さな体の子ども達も、金剛杖をカッツカツと突きながら、真剣にそして必死に登って行く姿にとても勇気づけられました。途中高山病などにより、登頂できなかった子もいましたが、降りてからは「やっぱり上まで行きたかった」「悔しい」などの声が聞け、登山を通して、登れた子も登れなかった子も一歩成長してくれたなと感じました。そして何よりも、すばらしい!と思えた事は、すれ違う人々みんなが、こんなには「や」がらばってね!「頂上まで後少しだよ」など、お互いに声をかけあえるのです。1つの山にいるみんなが想いを共有して、「励まし合い、讃え合い、挨拶を交わす」とても温かかったし、勇気が湧きました。山でも社会でも同じ気持ちでもっていかないと、OMONIAの心、日本っていいなあ」と改めて思いました。そして、頂上で最高の仲間達と食べた、おいしかったあのうどんを、いつか自分の子どもが大きくなった時に一緒に味わいたい。Real Dreamの夢を実現すると、又1つ夢が目標ができるんですね。ぜひ、みなさんも!

総務広報委員会委員長 駒井洋平

《社》埼玉中央青年会議所ではエコファ運動を推進しています。地球を顧慮して生活する、そんな人々をエコファ(ECOFA)と呼びます。私達は地球や環境での環境保護運動をはじめ、地球を一人ひとりの活動こそが、大きく貢献できるという信念をもちます。私たちが取り組むこの活動の意義と、日々の生活から地球を顧慮して行動すること、「エコファ」ではなく「エコ」が主眼点となる人(エコファ)は世界中で活動が広がっています。